

力をひっばるつなぎを



第一回漁民大運動会
福浦部落が総合優勝
十月二十七日赤崎小にて同大会の綱引き。それ引け！

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(代表3111番)
編集編集委員会
印刷所 旭印刷所
電話 水保③4101番

町長杯ナイター ソフトボール大会 竹中部落優勝

10月31日夜、町長杯ソフトボール大会の決勝戦が行なわれた。優勝した竹中チームの面々。



”えびの高原を 走ろうかい”

11月3日、津奈木町走ろう会は、鹿児島県”えびの高原”に行きさわやかな秋風を受け、山道を走り廻った。



▲漁民運動会でタイを片手にグテントからは応援がはずむ。
サーとれたぞー



▲陸上大会で大泊の井手さんポーズもよろしく軽く飛び。
若いバネ青空に飛ぶ



俊 足

矢のごとく駆け出す姿は若さそのものであり美しくたのしい。

11月7日、芦北水俣都市陸上大会での中学生女子400米もちろん1位

大蔵大臣賞を受ける

優良子供銀行全国表彰に参加して

十月十三日、熊本県代表として私たち(校長・子供銀行委員長・農協の吉川さん)三名は優良子供銀行表彰授与のため勇躍して上京の途についた。十月十四日午前十一時東京駅頭へ一歩を印した。大蔵省会議室が式典場に当てられ、その日は当日の説明並びにハールで日程を終り、翌日ホテルの宿舎に入った。十月十五日、表彰式の本番である。本校は全国代表として船場陸子さんが謝辞を述べる光榮に浴し、些か緊張した。式順もどきどき進み式の最後を飾る謝辞は水を打った様にシンとした会場にこだましてその雰囲気はふさふさい実立派なものであった。吉川さん共々安堵の胸をなでおろした。式後都内観光に向かった。明治神宮の参拝も足早に今日のハイライトである皇太子、美智子妃両殿下お接見のため東宮御所お接見の場で両殿下のお来場を待った。定刻お揃いで、お入りの時はさすがに全員の緊張の色をかくせなかった。両殿下親しくは児童一人一人に近づかれ静かな声でお言葉をかけられその労をねぎらわれた。目のあたりのお接見

4Hクラブ(津奈木町農業青年グループ) 身障の子供達を ミカン園に招待

去る、十一月四日、秋晴れのさわやかな日に芦北学園、(芦北町)の子供達を、みかん狩りに4Hクラブの青年達が招いた。
場所は内野地区の寺本信介君(郡4Hクラブ会長)の温州みかん園において実施され、引率の先生方から、自然に親しむ機会の少ない子供達に

赤崎青年団

14年間老人ホームを慰問

若者の意識が多様化している今日、青年の組織を運営していくことはなかなか大変なことなのに赤崎の青年団だけ



おしらせ
昭和五十二年に成人される方は次のとおり成人式を開催します。御出席下さい。
期日 一月四日(火)
時間 八時半〜十八時まで
場所 中央公民館・体育館



肥後狂句 堀 双岳選

後生願ひ、ふたこと目にやナンマイダ。
後生願ひ、本職の如くお経読む。
後生願ひ、あるつきりだけん負けとこう。
後生願ひ、念仏さんのしこなづき。
後生願ひ、一悪友連にさそわれて。
後生願ひ、コンニャク姿も詣りおる。
後生願ひ、道々嫁ご悪たわす。
後生願ひ、のみと風が置みやげ。
後生願ひ、説教聞く時ア眠りこけ。
後生願ひ、ゲートボールにはってかす。

次題
餅・そのあとが。
計四
計四句以内、十二月二十日
まで中央公民館へ。
新入歓迎

をかねて笑っておられた。
おじいちゃん、おばあちゃん達に、来年またみんな来ますよと挨拶していた団員の笑顔にはほのぼのとしたも

古中尾の山崎直次郎さん

日本顕彰会より受賞



▲菊に囲まれ表彰状を手にした山崎直次郎さん

山崎直次郎さんは、十一月五日、東京都徳川記念会館二階、国際会議場において、常陸宮殿下、同妃殿下のご臨席の場で表彰状を受賞されました。氏は早くから花木の苗木生産にはげまれて、県を初め県下希望町村へ無償で寄贈され美しい熊本県つくり、町つくりに協力して来られました。近年は老人福祉事業として老友会の一員として、花木の

「妻は夫を慕いつ、夫は妻をいたわって……」浪花節の文句ではないが、六十八年の永き夫婦睦まじく、夫婦揃って健康であることは、まことに目出度いことであり、又珍しいことだと思ふ。



ご夫婦が結婚なさったのは、明治四十一年であるから正に六十八年になる訳である。老年期が進むにつれて、ツレアイが恋しくなるのは、人情の然らしむところで、夫婦揃って健康であることは、老

私説 老人優等生 (ハ) 竹中 鶴野満真さん

奥さんの言で、満真さんは、今でこそ晩酌一ぱい位だが若い時は豪酒の部類で、かつて村会議員時代三名で十五名の議員相手に酒比べをやり相手を散々へこましたというエピソードもあり当時は一升位は平気だった模様である。その大酒豪家の鶴野さんが

区長さんや老友会を通じて無償で配布されるなど、その善意に対し、県知事を初め美しい熊本つくり推進会議長、熊本県町村会会長等からは「功労賞」熊本日日新聞社から、「緑のりボン賞」を受けておられました。今回、財団法人日本顕彰会の表彰選考委員会の審査を経て、栄えある受賞者と決定され、常陸宮殿下、同妃殿下を初め三木総理大臣厚生大臣など各界の来賓出席のもとで表彰されたことは、御本人の名誉は申すまでもなく、本町の誇りでもあります。



▲今日も花の手入れに精を出される山崎さん

ガソリン

115円の国

東南アジア 中近東訪問記 (完)

林田 和幸

ボンベを出港して二日目、ベルギー湾に入る。インド洋と同じく海は静かで午前九時から午後四時までの船内研修はバシー海峡や南シナ海とは違い、船酔い一人も出ず、全員出席するように研修運営委員長として大助かりした。ベルギー湾上では北にイラン南にサウジアラビアを望むことができ、どちらの国も沙漠がそのままたまにスツと入り込んだ形でそれが無限に続いており、夜になると油田から光ったとしたが暗夜を照らし今にもオーロラの世界へ引き込まれるようになる。

二月十四日、クエイト国着午後四時から十一時までクエイト国主催の歓迎パーティが開かれ、さすがに世界最高の国民所得を保つ国だけあって一人一人に高級な椅子、テーブルの上には豪華な料理、始めて見る果物が並べられステージでは民族衣装をまとってのダンス、そこはもうすでにアラビアンナイトの世界であった。欲をいうと、これにカクテルでもあればと思ったが、クエイトは禁酒国でアルコールは一切販売していない。しかし嫁さんは「う、までもらえ



▲クエイト市内のメインストリート

よりよい部落

つくりをめぐして (一)

町中部落

果が大きな目標をか、けて努力している『新しい郷土づくり』は言いかえれば『住みよく温かい心のかつた郷土づくり』とも言えるだろう。その郷土づくりの土台は『まず部落づくり』から、そしてそれは『私達の手で』を合言葉に努力している部落がある。町中部落がそれだ。三月一日には水俣市五ヶ市町村代表として部落づくりの経過を発表するまでになった。編集者は公民館に行きその内容を聞き、その一部を紹介する。まずこの部落がなぜこのようなことをしてきたかを聞くと津奈木で一番人口が少ないため、体育が盛んな津奈木では常に不利な条件にあり、成績も満足いくものでなかった。そこから、体育の真の目標は何か、単に勝つことのみか勝つても負けても、試合に出ることと部落の人々と、どのように関連づけたいのかがう。勝つために努力し、その過程に生まれる協力的、連帯感、親愛感などを育てることがもって大切ではなからうか。そして小部落なるが故の悪条

件がひいては子供に劣等感をもたせてはならない。なんとかして我々社会人は子供を正しく育てる義務がある。そのためにはどうしたらよいか!? 自分にはできることは何か……等真剣に考え話し合いを重ねられた中から、部落づくりの第一歩が始まった。そして以下のようなことが計画、実践されてきています。

(一) 行事を通して部落づくり。体育行事の町民体育祭に積極的に参加し、小さな部落でも参加する喜びと意義を深め、勝ち負けにこだわらず互に協力し仲よく楽しい部落づくり

(二) 部落の行事を充実させよう。これは伝統行事を受けつぐなかで長老の心を大切に、子供の心をより正しくゆたかに守り育てようという目標と部落の人々の心のつながりを求めて行われる行事でその一例をあげると。

(1) 一月七日のどんとや。(2) 三月末の新入学生と卒業生のお別れ会と歓迎の会。(3) 十一月三日の氏神の清掃と子供にまでさびしい思いや劣等感を持たせないように気を配っている。

スタミナは!!

こうしてつけましょう

若々しくスタミナにあふれた生活は、誰しも願うことです。しかし、スタミナは突然ついてくるものでも、スタミナ作りの特効薬が、あるわけでもありません。それは栄養、運動、休養の調和をはかる、自分自身の日常の努力の中からつくられていくものです。

(1) 朝食を必ずとりましょう。そして身体に使う方に合わせて食事の量を減減しよう。運動不足、加齢に伴って必要エネルギーは減ります。若いときと同じに食べていると、エネルギーが余って皮下脂肪となり肥満します。

(2) 一日に少なくとも三十種以上の食品をとろう。食品を数多く組合わせて食べる事が栄養のバランスのとれた食事作りのポイントです。

(3) 肉・魚・卵・大豆製品・牛乳・乳製品のどれかを毎食必ず食べよう。もちろん野菜をたっぷり添える事を忘れず、自分自身の日常の努力の中からつくられていくものです。

(4) 運動は、まず歩くことから始めよう。歩く速さ、距離などは自分の年齢や体力に合わせたペースを作り、少し汗ばむくらい。

(5) 年令と体力に合った運動を日課に、現代生活は、急速に私達の運動能力を低下させています。強い心臓と筋肉を養い、血行をよくし、脳の動き

津奈木町婦人会 宮崎 哲子

津奈木民話 (二) 佐々木 緑

辻の大山尉狐

辻の野原いっばい、朝日が当たって、野草の露がキラキラと光る頃、太右衛門が振りまわす大鎌も、キラキラと光りながら、バサリバサリと草をなぎ倒してゆく。太右衛門は、心の中で、今日はどうして、おさん尉をからかってやろうかと作戦を練っている。もうお昼時だと思ったら急に空腹を覚えた太右衛門は、鎌を置いて、弁当をおいて、ヨイドン池の傍にやって来て、小枝を集めて、ウバイワシを焼き始めた。ゆるやかな煙と共に、うまそうなイワシの匂いが、あたりに漂い広がって行く。

池の上あたり、小高い丘のやぶに寝そべっていたおさん尉は、うまそうなイワシの焼ける匂いに誘われて、鼻をクンクンと鳴らしながら太右衛門の方に走って来たが、一応立止って、太右衛門の機嫌を伺って見上げる。

「おさん、こっちは来よう」と手招きすると、安心したおさん尉は、太右衛門の傍に腰を下ろした。「ほうら」とイワシの頭を二ツ三ツ鼻先に落し

(つづく)